

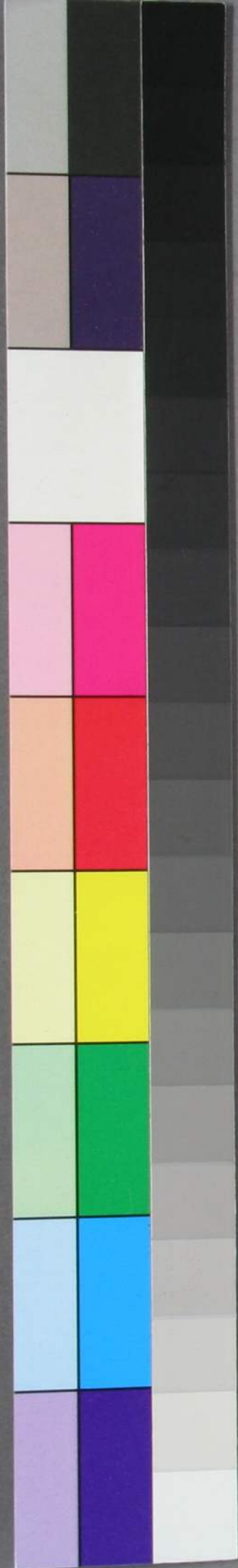


鼓系々夜話園菊會

葛吉板

上

13
2378
315



2378
3/6

梅舍春鳥作
五雲亭貞秀画

上の巻

敏夜話語園菊 全四冊

天保十己 庚

新版 紅英堂

一

古今奇談敏夜野話ハ明和年間の刊行。近路行者の著述なり。
曾々和漢の故事小説を雅俗の文にて翻案せし。語の園生不
芳しき。白菊の巻中ハ白猿梅嶺の旧趣を仮り。占卜の前敷ハ
因縁輪廻の説比論して。烈婦の節操を挙る。爰チ友人
梅舍春鳥。件の一種本據として此策子と戲編せり。予潛不
閑まるふは荒唐として奇怪不渉とぞ。亦女教の名實全からん事
を別ますの微意ある。兒女をくく勸懲の一助ともるなりんか。
漫小勸て梓小上せ書名も其終敏夜野話語の園菊と題侍らぬ。

天保十稔己亥孟春

春迺屋梅磨記

そのまき



望月太郎

守門

猿牽ハ

猿

相殿

子ねん

桃青

白菊姫の侍臣

猿増節二郎直道

そのま



桃園柿実の

息女白菊姫



餘二郎妹
阿旬

様
酒
様
其角



桃園の家臣
瀧口傳兵衛
武俊

夏州や
つ
芭蕉
夢

横行解八



くもて
てふ
ちぬ
あむ
まきの
の

拂
夜々



續後撰集
せいのま
の指
成

信
嶽の
山の
精
物
俗
山
精
姑
娘
化
木
の
葉
と
呼

山
賊
の
首
領
飛
雲
洞
の



そのころ大立ち上りの
やうな時で、そのころは
りやうと、そのころは
ひやうと、そのころは
男子は、そのころは
ひやうと、そのころは
ひやうと、そのころは
ひやうと、そのころは
ひやうと、そのころは
ひやうと、そのころは
ひやうと、そのころは

さういふ
きんぎょを
つらねて

左のつらねて
のつらねて
のつらねて
のつらねて
のつらねて
のつらねて
のつらねて
のつらねて
のつらねて
のつらねて

そのころ

六



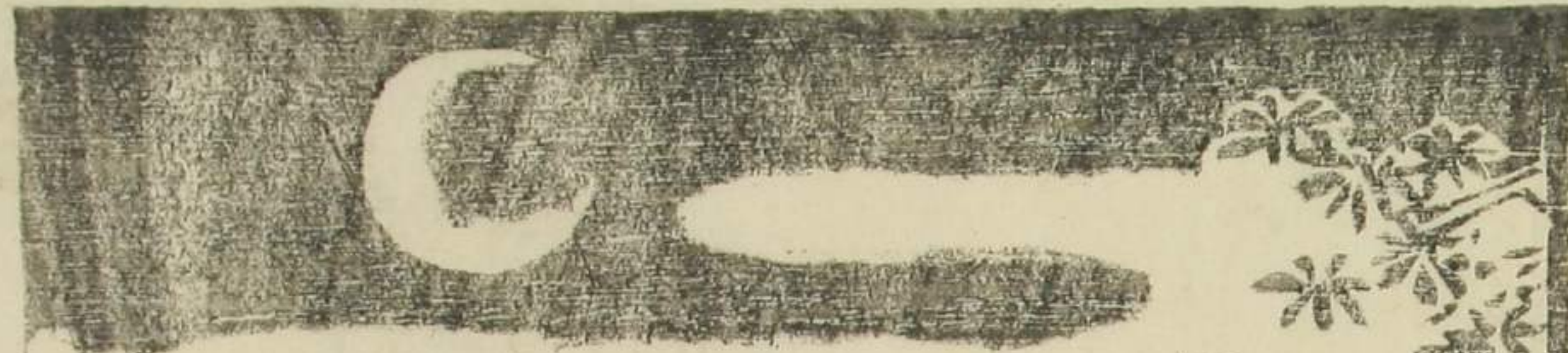
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ

そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ

そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ
そのころ

そのころ

七



まさしくあまふも
 かたみちちを
 いづれにむかひ
 ぞとこれにまを
 みんこまを
 ののこれにあまふも
 こまのいづれに
 とまのいづれに
 いづれに
 うまのいづれに
 せんさくまのいづれに
 らまのいづれに
 のあるであまふも
 あんとついでに
 道人はついでに
 だんめいのいづれに
 きこまのいづれに
 けいこまのいづれに
 たらぬまのいづれに
 えんめいのいづれに
 いあまのいづれに
 ままのいづれに
 せうまのいづれに
 のあるであまふも
 いまのいづれに



そのま

十

左
 右
 上
 下



ままのいづれに
 せうまのいづれに
 のあるであまふも
 いまのいづれに
 ままのいづれに
 せうまのいづれに
 のあるであまふも
 いまのいづれに
 ままのいづれに
 せうまのいづれに
 のあるであまふも
 いまのいづれに



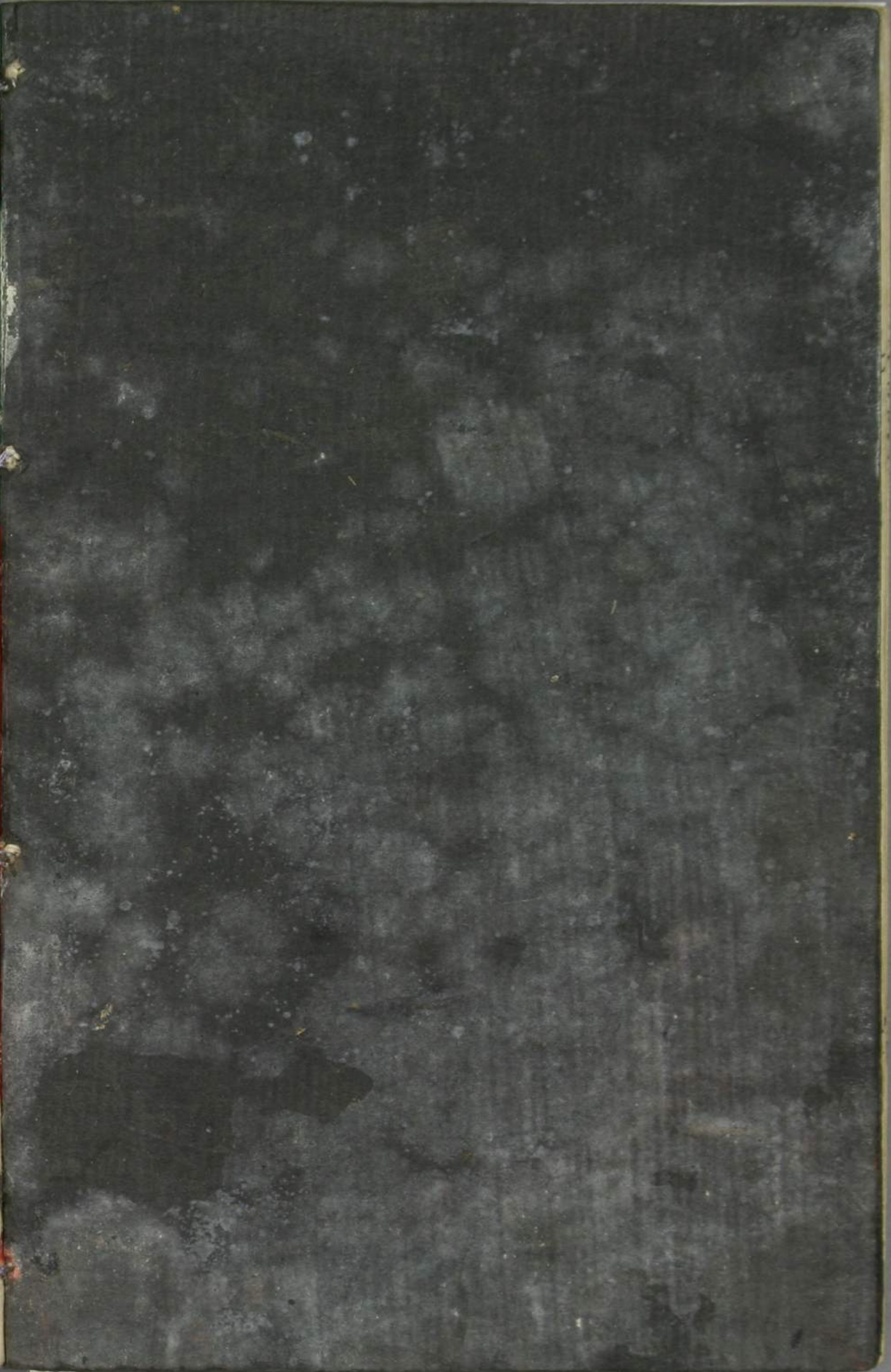
左
 右
 上
 下

左
 右
 上
 下

梅舎春鳥作
五雲亭貞秀画

五雲亭新版

下





天保十年己亥新版史類目錄

合鏡萬 柳亭種彦作 香蝶樓國貞画 全冊	大晦日曙草紙 東庵京山作 初編全冊 香蝶樓國貞画	手網漆餘作春駒 墨春亭梅磨作 香蝶樓國貞画 全冊	義艶仙女香 取次呀 地本問屋 萬屋吉藏版
繁々夜話語園菊 梅舎春鳥作 五雲亭貞秀画 全冊	犬塚縁起藤士傳 萬丸作 五風亭貞虎画 全冊	其移香梅由兵衛 萬丸作 五風亭貞虎画 全冊	名夜宅比六歌仙 萬丸作 五雲亭貞秀画 全冊

江戸中橋南傳馬町一丁目東側

梅磨校合

梅舎春鳥作

五雲亭貞秀画



梅磨校合
梅舎春鳥作
五雲亭貞秀画
此の巻は、梅磨校合の巻で、梅舎春鳥の作、五雲亭貞秀の画である。...

